

震災豫防調査會記事

關東大地震直後ヨリ大正十三年末ニ至ル記事ハ報告第百號甲(地震篇)調査事業概要中ニアルカラ茲ニハ其ノ以降ノ分ヲ掲グルコトトシタ。

大正十三年十月十一日委員會(第百十回)ニ於テ決定シタ事項ニ就キ爾來調査事業ノ歩ヲ進メ、其ノ調査報文ノ如キハ各委員ノ最大努力ノ下ニ漸次集積シテ豫想以上浩漭ノモノトナツタ。豫定ノ方針ニ基キ關東大震災ニ關スル報文ヲ報告第百號トシ、之レヲ五部門ニ分チ、甲ヲ地震篇、乙ヲ地變並津浪篇、丙ヲ建築物篇、丁ヲ建築物以外ノ工作物篇、戊ヲ火災篇トシテ分類編纂シタガ、大正十三年度ノ經常費豫算ハ此等印刷費支辨ノ餘裕ナキ爲メ、臨時部復舊費ニテ印刷費一一、一六四圓豫算ノ分配ヲ受ケ、大正十四年二月辛ウジテ内 甲、乙、戊ノ三篇ヲ印刷ニ付シ、三月末ニ於テ出版スルニ至ツタ。右ニ就テハ豐富ナル原稿ニ對シ豫算ノ不定ヲ痛感シ、印刷方法ヲ舊來ノ常套ニ依ラズ出版發賣ヲ引受クル者ヲ撰ミ、發賣權ヲ與フル條件ノ下ニ指名競争ノ入札ヲ行ヒタルニ、岩波書店ノ奉仕的入札ヲ得タルハ仕合セデアツタ。但シ遺憾ナルハ豫算不足ノ爲メ、大切ナル丙、丁二篇ノ出版ヲ中止スルノ餘儀ナキニ至ツタコトデアル。

震災調査ノ爲メ委員及囑託員ノ大正十三年度中出張ハ左ノ通りデアツタ。

東京府下 震災事項調査 計 三週間 中村(清)委員
東京、京都兩府及茨城、千葉兩縣下

靜岡縣下	同	計 十七日	今村 委員
神奈川、靜岡兩縣下	同	計 一週間	中村(左)委員
東京府及千葉縣下	同	計 五日	松澤 囑託
神奈川縣下	同	計 十日	那須 囑託
土木工事ニ關スル震災調査	同	計 十六日	物部 委員
同上	同	計 二十二日	金森 囑託

大正十四年四月、同年度本會經費豫算ノ通達ヲ受ケタガ、前年度豫算ノ約半額ニ減殺サレタ。一方東京帝國大學ニ地震研究所ヲ新設サレルコトナリ、該經費ハ半箇年分ヲ計上サレタ。試ミニ双方ノ經費豫算ヲ合計シテモ前年度ノ額ニハ達セヌモノデアル。特ニ試驗費ノ如キハ全部削除セラレ、人件費モ亦大打撃ヲ蒙リ、現状ノ儘ニテハ將來事業ノ繼續ハ勿論其ノ維持スラ困難トナツタ。

同四月二十一日、前記大正十四年度ノ豫算ニ關シ本會ノ調査事業特ニ地震ノ不斷觀測ノ如キ之ヲ中止スルコトハ甚ダ遺憾ニ堪ヘヌノデ當局ト交渉セルモ結局豫算ノ増額ハ望ミガナク差繰リテ經理スルノ外ニハ取ルベキ途ガ絶エタ、併シ追テハ事業ニ屬スルモノハ大學ノ地震研究所ニ引繼グコトニナル模様デアツタカラ豫メ此旨ヲ各委員ニ參考トシテ通知ヲ發シタ。

同五月二十三日、但馬地方ニ激震ガアツタ、被害ノ程度モ頗ル大ナル模様デアルカラ取り敢ズ本會委員並ニ囑託員ヲ差繰リテ震害狀況調査ノ爲メ被害地ニ出張セシメタ。(報文ハ本

號ニ登載)

同六月二十六日第百十四回委員會ヲ東京帝國大學工學部食堂(現大學本部地下室)ニ開イタ、出席委員二十五名、囑託員及客員若干名。今村幹事ノ發議ニ依リ前例ニ基キ座長ヲ中村(精)委員ニ依頼シ幹事ヨリ豫算ノ件ニ就キ委曲ノ説明ヲ爲シ各委員及幹事トノ間ニ質問應答アリテ結局今後ニ對スル豫算ニ關シテハ幹事ニ一任シ圓滿ナル解決ヲ得ベク盡力ヲ望ムコトニ協定シタ。次ニ佐野、内田兩委員ヨリ提出ノ左記二案ニ就キ協議シタ。

一、但馬地方震災後家屋建築及修理ニ關スル注意

二、木造小學校建築ノ耐震上ノ注意

右ニ關シ佐野委員ヨリ一應ノ説明アリテ尙ホ左ノ附言ガアツタ。

第一ノ方ハ但馬地方ヲ目標トシテ調査シタルモノニシテ從テ同地方ニ對シ必要ナルモ、第二ノ方ハ獨リ但馬地方ノミナラズ全國一般小學校ニ對シテ緊切ナルモノナレバ全國ノ小學校ニ特ニ注意ヲ發シタイ、尙ホ此案ハ最モ力アルモノトシテ徹底セシメタイ、即チ文部省ニ建議シテ訓令デモ出シテ地方長官ガ大ニ之レニ向テ力ヲ加ヘルト云フ迄ニモ進メタイ。

右ニ依リ協議ノ結果特別委員ヲ座長ヨリ指名シテ一案ノ方ハ該委員ヨリノ意見ヲ本月中ニ取纏メ成案ヲ作り適宜ノ措置ヲ取ルコト、二案ノ方ハ七月七日迄ニ該委員ノ意見ヲ取纏メ同様ノ措置ヲ取ルコトニ決シ、座長ヨリ右特別委員ヲ左ノ通り

指名ガアツタ。

佐野、内田、末廣、物部、内藤、竹内、柴垣、今村以上八名(谷口囑託參加)

次ニ左ノ報告演述ガアツタ。

一、但馬地方地震調査報告 (圖解説明) 今村委員
一、同上地學的調査報告 (同上) 山崎委員
一、同上建築破壊ノ狀況報告(同上) 谷口囑託
一、同上建築破壊ノ狀況ト其感想 末廣委員

同七月七日、特別委員會ヲ東京帝國大學地震學教室ニ開イタ、出席委員ハ佐野、物部、内藤、柴垣、竹内、今村ノ六名(谷口囑託參加)デアツタ、佐野委員提出ノ「但馬地方震災後家屋建築及修理ニ關スル注意(案)」ニ就キ各項ノ審議ヲ爲シ、更ニ佐野委員ニ於テ修正ヲ加ヘルコトトシテ大體ヲ協定シタ。

同七月十三日、特別委員會ヲ前同室ニ開イタ、出席委員ハ末廣、内田、柴垣、竹内、今村ノ五名(谷口囑託參加)デアツタ、「木造小學校建築耐震上ノ注意(案)」ニ就キ内田委員ノ説明ニ依リテ各項ノ審議ヲ遂ゲ大體ヲ協定シタ。

同七月二十八日、京都府、兵庫縣兩知事ニ左ノ照會ヲ發シタ。

震甲第四三號 兩知事宛

會幹事名

當震災豫防調查會ニ於テ先般山陰地方ノ震災ニ關シ委員ヲ出張セシメテ地震ト建築關係ヲ詳細ニ調査シタル結果震災後ノ建築並ニ修理ニ關シ各委員協議ノ上注意書ヲ作成致候

右注意書ハ震災地方ニ配付シテ參考ニ供シ度ク本文二頁圖解八種付ノ小冊子トシテ貴縣下ニ(若干)配付ノ心算ニ有之候該書ハ今後建築又ハ修理上極メテ緊切ナル要項ヲ舉ゲタルモノニシテ最モ有効ニ資セラレ度希望スル次第ニ付右配付ノ方法ヲ如何様ニ可致哉適切ナル御意見相伺度及照會候也

同八月十日、但馬地方震後ノ家屋建築及修理ニ關スル注意書(本文ハ本報告ニ登載シテアル)ノ印刷ガ出來タノデ文部大臣ニ進達シ同時ニ京都府、兵庫縣並ニ同被害地附近ノ町村役場及各委員ニ左記ノ通配送シタ。

震甲四七號 文部大臣ニ進達

會幹事名

本年五月但馬地方震災ニ關シ本會委員ヲ出張セシメ被害調査ノ結果該地方ニ對シ注意ヲ要スベキ緊切ナル事項ヲ綜合シ委員會ノ協議決定ヲ經テ但馬地方震後ノ家屋建築及修理ニ關スル注意書ヲ刷成シ茲ニ謹デ進達ス
追テ本書ハ急速ヲ要スルガ爲メ震災地方ノ府縣知事及要所ニ配付ノ手續ヲ取リタリ此段添申ス

震甲第四八號 京都府宛

會 名

先般但馬地方震災ニ關シ本會委員調査ノ結果自今建築若クハ修理ニ對スル注意書ヲ作成シ別冊(三十部)ハ貴府下要所ニ配付シ有効ナル參考資料ニ供シ實効アラシメ度七月二十八日附震甲第四三號照會ニ對シ八月五日附土第五一八二號御回答ニ基キ送付ノモノニ有之右ノ趣旨ニ依リ可然御配慮ニ預リ度及御依頼候也

追テ別冊三十部ハ別途郵便ニテ發送ス
備考

- 一、木造小學校建築注意書ハ別ニ作製致候ニ付不日御高覽ニ供シ得ベクト存候
- 二、別紙備考トシテ添付ノモノハ家屋構造上ノ參考マデニ列記シタルモノニ有之候

備考(別紙トシテ記載セルモノ)

既往各地ノ震災ニ際シ本會ヨリ發シタル注意書中木造家屋構造上ノ參考トナルベキモノヲ舉グレバ次ノ如シ

- 一、木造耐震家屋構造要領 本會報告第六號
- 一、山形縣下ニ關スル耐震上家屋構造ノ注意 同上

イ) 町家一棟改良構造仕様

ロ) 農家改良構造仕様

- 一、滋賀、岐阜兩縣下ノ家屋構造ノ注意

明治四十二年
十月十三日 官報

- 一、秋田縣下ニ關スル耐震上家屋構造ノ注意 大正三年六月二十七日 官報

- 一、大町地方震災後家屋建築及修理ニ關スル注意

本會報告第九十四號

- 一、島原地震ニ際シ建築ニ關スル注意

本會報告第九十九號

震甲第四九號 兵庫縣宛

會 名

本會委員調査ノ結果作成セル但馬地方震後ノ家屋建築及修理ニ關スル注意書ヲ貴縣下要所ニ配付上適切ナル御意見相伺度七月二十八日附震甲第四三號ヲ以テ貴知事宛照會ニ對シ未ダ御回答ニ接セズ候モ可成急速ヲ要シ候ニ付不取敢貴

廳ニ該書三十部別途郵便ニ付シ御送付申上候又同時ニ左記ノ通り貴縣下ニ郵送候ニ付尙必要ノ箇所モ有之候ハ、貴廳ヘ送付ノ分ヨリ可然御配付相煩ハシ度本件ハ前回申進候通震災地方ニ對シテハ極メテ緊要ノ事項ヲ舉ゲタルモノニ有之候間有効ニ適用セシメラレ度御諒承ノ上可然御配慮ノ程及御依頼候也

備考(別紙トモ京都府宛ノモノト同ジ)

記

一、城崎町役場	二〇部	一、豐岡町役場	二〇部
一、港村役場	一五部	一、竹野村役場	五部
一、田鶴野村役場	五部	一、五莊村役場	三部
一、新田村役場	三部	一、内川村役場	二部
一、八條村役場	二部	一、三江村役場	二部
一、中筋村役場	二部	一、國府村役場	二部

以上別途配送ス

震甲第五〇號 島根、鳥取兩縣知事宛 會幹事名

本年五月但馬地方震災ニ關シ本會委員出張ノ上被害調査ノ結果震後ノ建築修理ニ對スル注意書ヲ作成シ同地方要所ニ配付致候貴地方ハ幸ニ震災ハ無カリシモ一般家屋構造上ノ弱點ガ被害地方ト或ハ共通ナル事項モアリ得ベキコトト被存候ニ付御參考迄ニ該書五部別途郵便ニテ送付シ御高覽ニ供シ候也

備考(京都府宛ノモノト同ジ)

震甲第五一號 兵庫縣下町村役場宛 會 名

本年五月貴地方震災ニ關シ本會委員出張ノ上被害調査ノ結果別冊注意書作成致候右ハ貴地方ニ對シ極メテ緊切ナル事項ヲ舉ゲタルモノニ付御參考ノ爲何部(兵庫縣宛末尾記載ノ通)別途郵便ヲ以テ御送付申上候間當事者ニ對シ注意ノ趣旨徹底候様致度御配慮相成度此段申進候也

追テ小學校ニ關スル分ハ別ニ調査作成ノモノアリ不日何等カノ方法ニ依リ配付ノ見込ニ付御含ミ迄ニ申添候

震甲第五三號 各委員(關係囑託員共)宛 會幹事名

曩ニ委員會ニ附議シ特別委員ノ協定ニ係ル「但馬地方震後ノ家屋建築及修理ニ關スル注意書」別冊ノ通刷成シ文部大臣ニ進達並ニ震災地方要所ニ配送ノ手續ヲ取り候ニ付御諒知相成度一部及送付候也

同八月十九日、木造小學校建築耐震上ノ注意書ハ曩ニ特別委員ノ協定ヲ經テ成文トナリタルモ先以テ圖解ノ製版ヲ必要トシタルヲ以テ之ヲ成版ノ上本文ヲ謄寫シ右圖解ヲ付シ、此日ヲ以テ左ノ如ク文部大臣ニ進達シ、尙ホ上司ヨリ全國各地方長官ニ示達並ニ一般當事者ニ本趣旨ノ徹底ヲ計ラレンコトヲ文部省當路者ト交渉シタリ。(本文ハ本報告書ニ登載シテアル)

震甲五四號 文部大臣ニ進達 會幹事名

本邦各地ニ於ケル木造小學校ノ建築ノ多クハ耐震的ニ構造サレテ居ナイ爲メニ一朝震災ニ際會シテハ眞先キニ倒潰シ可憐ナル兒童ヲ死傷セシムルニ至ルノハ洵ニ遺憾ノ次第デアリマス、本會ニ於テハ此ニ鑑ミテ研究ヲ重ネ木造小學校

新築ノ場合ニ於ケル耐震の手法ト在來ノ同建築ニ對スル補強法トヲ作製シテ當事者ノ注意ヲ促ス事ト致シマシタ、此ハ舊ニ過去ノ震災地方ノミナラズ全國ノ各小學校ニ迄モ汎ク本注意書ノ趣旨ヲ實行セシメラレテ學校自身ガ震災カラ免レルト共ニ如何様ナ地震ノ場合ニモ登校中ノ兒童ニ對シテ父兄ハ安心シテ居ラレル様ニ致シ度イト希望スルカラデアリマス、茲ニ此趣旨ヲ添ヘ謹デ本注意書ヲ進達致シマス。

同九月二十一日、東京帝國大學地震學教室ニ山崎、中村(清)、今村、田丸、寺田、末廣、岡田、佐野、内田、那波、物部、大石、内藤ノ委員十三名ノ會合ガアツタ、本會ノ組織ハ自然變更セラルベキ形勢ニアルカラ從來ノ事業ニ關スル事項ハ地震研究所ニ於テ全部ヲ包擁シ、其ノ事業ヲ繼承スルコトニ諒解ヲ得ル様豫メ其筋ニ適宜申立テルコト等二三件ニ就キ内協議ヲ爲シタ。

同十月一日、文部時報(第百八十六號附錄)トシテ曩ニ文部大臣ニ進達シタル「木造小學校建築耐震上ノ注意書」ニ進達文ヲ附シテ掲載セラル。

同十月十四日、前項注意書ノ印刷シタルモノヲ文部省ヨリ若干部送付ヲ受ケ各委員ニ左ノ書面ヲ附シテ配送ス。

震甲第七一號 各委員宛(關係囑託員共) 會幹事名

曩ニ委員會ニ附議シ特別委員ノ協定ニ係ル木造小學校建築耐震上ノ注意書ハ別冊ノ通印刷ニ付及御送付候右ハ文部省ヘ交渉ヲ遂ゲ要所ニ配付シ趣旨ノ徹底ヲ期シ度ク文部時報ニ登載シ注意ヲ促カスコトトシタリ右御諒知相成度候也

同十月二十一日、文部省普通學務局長ヨリ各地方長官ニ左ノ通牒ヲ發シ更ニ文部時報第百八十九號ニ掲載セラレタ。

發普三五七號 各地方長官宛 文部省普通學務局長名

木造小學校建築耐震上ノ注意ニ關スル件

本邦各地ニ於ケル木造建築ノ多クハ耐震的ニ構造セラレテ居ラサル爲一朝震災ニ際會シテハ不時ノ破損倒壞ヲ來シ之ガ爲ニ往々死傷者ヲ生シ洵ニ遺憾ノ次第ニ有之處今回震災豫防調査會ニ於テハ此ニ鑑ミ小學校木造校舍建築ノ場合ニ於ケル耐震の方法ト在來ノ同建築ニ對スル補強法トヲ研究發表セラレタルガ右ハ有力ナル參考資料ト認メ大正十四年十月一日發行ノ文部時報(第百八十六號附錄)ニ掲載致シ置キタルニ付テハ自今校舍營繕等ノ場合ハ右御參考ニ供セシメラレ度尙貴管下關係者ヘモ可然御示達相成度

同十一月十四日、震災豫防調査會ハ此日ヲ以テ廢止セラレ新タニ震災豫防評議會官制ガ公布セラレタ、同時ニ地震研究所官制ガ公布セラレテ東京帝國大學ニ附置スルコトニナリ、同所ニ於テ地震ノ學理及震災豫防ニ關スル事項ノ研究ヲ掌ルコトトナツタ。震災豫防評議會デハ文部大臣ノ監督ノ下ニ其ノ諮問ニ應ジテ震災豫防ニ關スル重要ナル事項ヲ審議スルノデアル、又從來震災豫防調査會ノ殘務ハ同會デ整理スルコトトナツタ。左ニ參考ノ爲ニ雙方ノ官制ヲ掲ゲテ置ク

○震災豫防評議會官制

大正十四年十一月十四日官報
勅令第三百十二號

第一條 震災豫防評議會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問

ニ應シテ震災豫防ニ關スル重要ナル事項ヲ審議ス

第二條 震災豫防評議會ハ震災豫防ニ關スル重要ナル事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 震災豫防評議會ハ會長一人及評議員三十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條 會長ハ文部次官ヲ以テ之ニ充ツ評議員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條 會長ハ會務ヲ總理ス
會長事故アルトキハ文部大臣ノ指名シタル評議員其ノ職務ヲ代理ス

第六條 震災豫防評議會ニ幹事ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ評議員又ハ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條 震災豫防評議會ニ書記ヲ置ク文部部内判任官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

震災豫防調査會官制ハ之ヲ廢止ス

○地震研究所官制

大正十四年十一月十四日官報勅令第三百一十一號(改正大正十五年勅令第一一七號)

第一條 東京帝國大學ニ地震研究所ヲ附置ス

第二條 地震研究所ハ地震ノ學理及震災豫防ニ關スル事項ノ研究ヲ掌ル

第三條 地震研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所 長

所 員

助 手

書 記

第四條 所長ハ帝國大學教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス
所長ハ東京帝國大學總長ノ監督ノ下ニ於テ地震研究所ノ事務ヲ掌理ス

第五條 所員ハ帝國大學ノ教授及助教授其ノ他ノ關係各廳高等官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

所員ハ所長ノ監督ノ下ニ於テ研究ヲ掌ル

第六條 助手ハ專任十人判任トス上司ノ指揮ヲ承ケ研究ニ從事ス

第七條 書記ハ專任二人判任トス上司ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第八條 帝國大學教授ニシテ所長又ハ所員ニ補セラレタル者ニハ講座ヲ擔任セシメサルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ講座ヲ擔任セサル教授及所員ニ補セラレ專ラ所務ニ從事スル助教授ハ所屬帝國大學ノ定員外トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

同日 此日マデ震災豫防調査會ノ現在職員ハ左ノ如クデア
ル、(官制廢止ト共ニ自然廢職トナル)但シ氏名ノ下括弧内ニ
文字ヲ記入セルモノハ同時又ハ後ニ至リ震災豫防評議會ノ職
員トナツタ名デアル。

會長(缺員)

幹事(委員) 從四、勳三

委員 正三、勳一

同 正三、勳一

同 正三、勳一

同 正三、勳二

同 從四、勳四

同 正三、勳二

同 從三、勳一、男

同 正五

同 正四、勳三

同 正四、勳三

同 從三、勳三

同 從四、勳三

同 正四、勳二

同 從四、勳四

同 正五、勳四

同 從四、勳三

同 從四、勳三

同 從五

同

今村 明 恒(評議員兼幹事)

小藤 文次郎(評議員)

田中 館愛橘(評議員)

田邊 朔郎(評議員)

長岡 半太郎(評議員)

巨智 部忠承(評議員)

中村 精男(評議員)

古市 公威(評議員)

曾 禰 達藏(評議員)

山崎 直方(評議員)

中村 清二(評議員)

井上 禧之助

今村 明 恒(評議員)

田丸 卓郎(評議員)

寺田 寅彦(評議員)

佐野 利器(評議員)

志 田 順

大石 和 三郎(評議員)

同

同

委員

同 正四、勳三

同 從四、勳三

同 從四、勳三

同 從五、勳六

同 從四、勳三

同 正六

同 正六

同 從六

同 正五、勳四

同 正六

同 從四、勳三

同 從四、勳三

同 從四、勳三

同 正五、勳四

同 正六

同 臨時議院建築局技師

同 正四、勳三

同 陸軍少將

同 內務技監

同 從三、勳二

同 水路部長、陸軍少將

同 正五、勳二

同 文部屬

同 從六

臨時委員

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

那波 光雄(評議員)

末廣 恭二(評議員)

岡田 武松(評議員)

物部 長穗(評議員)

内藤 多仲(評議員)

諸戸 北郎(評議員)

堀越 三郎

中村 左衛門太郎(評議員)

加藤 武夫(評議員)

笠原 敏郎(評議員)

竹内 六藏(評議員)

片山 正夫

澁澤 元治

柴垣 鼎太郎

大島 義清

竹中 二郎

矢橋 賢吉

大村 齊(評議員)

市瀬 恭次郎(評議員)

植村 信男(評議員)

小川 織三

寺田 鏡次

保田 柱二(事務囑託)

西澤 順作

話

那須信治

金木恒四郎

山口生知

植
木
郡
策

佐藤新太郎

赤木健

渡邊周太郎

菊池若次郎

齊田時太郎

分省略

職員トナリタ

ナリタル外左ノ

松浦鎮次郎

金原信泰

菊澤季磨

遠藤龍藏

大野勝治

初令第五十五號

四年勅令第三百七

三十三卷六簡

殘務ハ未ダ完了

配付其ノ他財産ノ

之ヲ繼承處理ス

[illegible]

松浦鎮次郎

金原信泰

菊澤季麿

遠藤龍藏

大野勝治

震災豫防調査會ハ明治二十五年勅令第五十五號（六月二十

七日官報)ニテ官制公布以來大正十四年勅令第三百十二號(十

一月十四日官報）ニテ官制廢止ニ至リ三十三年六箇月ノ壽命

ヲ以テ全ク終焉ヲ告ゲタノデア
ルガ殘務ハ未ダ完了ニ至ラ

ズ、其ノ調査報文ノ編纂、印刷、配付其ノ他財産ノ所管換等

多數アリテ引續キ震災豫防評議會ガ之ヲ繼承處理スルノデア

ル。此ノ三十有餘年ノ生命中調査研究ノ結果ガ學界ハ勿論社會一般ニ如何ニ貢獻ヲ爲シタカハ其ノ出版セル和英兩文ノ報告書等ニ依ツテ知悉セラルノデ、其ノ和文報告書ノ如キハ號ヲ重ヌルコト百一ヲ以テ算スルニ至リ、何レモ専門委員等ノ努力ニ依リ極メテ眞摯ナル態度ヲ以テ心血ヲ濺ガレタモノデ、從ツテ識者間ニ珍重セラレルノデアル。今此ノ創立ヨリ

終焉ニ至ル期間ニ於ケル職員（會長、幹事、委員）ノ變遷ニ就キテハ會ノ生命ト共ニ殆ンド殉職セラレタモノモアリ、會ノ生育ヨリ最後ヲ見届ケテ尙且斯道ニ盡瘁セラレルモノモアルノデ、茲ニ其ノ梗概ヲ記シ置クノハ敢テ無益ノ業ニアラザルベキヲ信ジ、其ノ大體ヲ掲ゲルコトトシタ。

會長				（現存者ノ位勳ハ茲ニハ記入セヌコトトシタ以下皆同ジ）			
年	命	月	日	年	免	月	日
在職年				氏名			
年	月	日	數	年	死	月	去
備考				日			
明治二五、七、十四、會長	明治二六、四、七、退	〇、一〇	年	文、法、博	加藤弘之	大正五、二、九、薨	正二、勳一
明治二六、四、七、會長	明治三四、六、一二、退	八、一〇	男	理博	菊池大麓	大正六、八、二〇、薨	從二、勳一 幹事、委員別掲
大正二、一二、二五、會長	大正六、八、二〇、薨	三、九	男	理博	辰野金吾	大正八、三、二六、薨	從三、勳三 委員別掲
明治三四、六、一二、會長	明治三五、一二、二九、退	一、七	工博	工博	眞野文二	大正一二、一一、八、薨	正三、勳一 幹事、委員別掲
明治三六、一、二〇、會長	大正二、一二、二五、退	一、〇	理博	理博	大森房吉		
大正六、九、八、會長事務取扱	大正一二、一一、八、薨	六、三					
明治二五、七、一四、幹事	明治二六、四、七、會長ニ轉	〇、一〇	委員	菊池大麓	大正六、八、二〇		委員別掲
明治三〇、一二、二二、幹事	大正一二、一一、三、會長ニ轉	二七、〇	委員	大森房吉	大正一二、一一、八		委員別掲
大正一二、一一、三、幹事	大正一四、一一、一四、官制廢止	二、一	委員	今村明恒			委員別掲
委員							
明治二五、七、一四、委員	大正六、八、二〇、薨	二五、二	男	理博	菊池大麓	大正六、八、二〇、薨	從二、勳一 震災豫防評議員
同日	（廢）大正一四年一月一四日官制廢止ヲ示ス以下同	三三、五	男	工博	古市公威		（評）議會評議員 以下同ジ

[illegible]

明治二九、十一、二四、臨時委員	明治三六、七、一八、退	六、九	工博	石井敬吉	大正一一、七、一七、薨	正三、勳二
同 二九、十一、二七、委員	大正十一、七、一七、薨	二五、九	工博	近藤虎五郎	大正一一、七、一七、薨	正三、勳二
同 三〇、五、十三、臨時委員	明治三二、一、二七、逝	二、三	工博	野邊地久記	明治三二、一、二七、逝	從六
同 三〇、八、一七、同	同 三五、四、一七、退	五、〇	工博	野口孫一	大正四、一〇、二六、逝	從七
同 三二、四、一一、同	同 日、退	四、九		小山友直		
同 三三、二、九、委員	大正一〇、一、二三、卒	二一、一〇		福岡常次郎	大正一〇、一、二三、卒	正五、勳六
同 三三、二、九、委員	同 三、二、二五、退	一四、一一	工博	廣井勇		
同 三三、二、九、臨時委員	明治三五、四、一七、退	二、三	工博	吉町太郎一		
同 三三、二、九、臨時委員	(廢)	二五、六	理博	中村清二		(評)
同 三三、二、九、臨時委員	(廢)	二五、六	理博	今村明恒		(評)
同 三三、二、九、臨時委員	(廢)	二五、四		大石和三郎		(評)
明治三三、八、一〇、臨時委員	明治三六、七、一八、退	三、〇	理博	本間義次郎	明治四一、一一、二三、逝	從六
同 三四、一、五、委員	大正二、七、八、退	一一、九	工博	團琢磨		
同 三五、四、一七、臨時委員	同 一〇、六、二、卒	一五、三	工博	日比忠彦	大正一〇、六、二、卒	從四、勳三
同 三五、四、一七、臨時委員	同 一四、一、五、薨	二二、一〇	工博	柴田哇作	同 一四、一、五、薨	從三、勳二
大正三三、二、二五、臨時委員	(廢)	二三、六	理博	山崎直方		(評)
大正三三、二、二五、臨時委員	(廢)	二三、五	林博	諸戶北郎		(評)
明治三五、七、九、臨時委員	(廢)	一六、〇	理博	志田順		
同 三、二、二五、同	(廢)	一一、〇	理博	井上禧之助		
同 五、一八、委員	(廢)	一一、〇	工博	佐野利器		(評)
同 五、一八、委員	(廢)	九、七	理博	田丸卓郎		(評)
同 六、一〇、一五、臨時委員	(廢)	九、七	理博	寺田寅彦		(評)
同 九、七、一五、臨時委員	(廢)	八、二	工博	內田祥三		(評)
同 九、七、一五、臨時委員	(廢)	五、五	工博	堀越三郎		(評)

[illegible]

震災豫防調査會ニ於テ從來其筋ノ許可ヲ受ケ各測候所等ニ裝置ノ官用無線電信受信施設者名義ハ官制廢止ト共ニ名義變更ノ必要ヲ生ジタノデ所用箇所ノ名義ニ變更方遞信大臣ニ申請ノ手續キヲ爲シ漸次承認ヲ得タ。

大正十四年十二月二十五日、評議員ニ左ノ交迭ガアツタ。

(依願)震災豫防評議會評議員被免(內閣)

正五、勳二(元水路部長) 植村 信 男

震災豫防評議會評議員被仰付(內閣)

從五、勳三、功五(水路部長) 米 村 末 喜

大正十五年二月二十四日、元震災豫防調査會所管官有財産(不動産)ノ大部ガ東京帝國大學構内ニアリ一部ハ筑波ニアルガ此等建物及工作物ハ東京帝國大學ノ理學部(地震學教室)及同地震研究所デ必要ナノデ文部大臣ニ同大學總長ヨリ所管換ノ申請ヲ爲ス等ノ交渉ヲ進メタ。(本件ハ昭和二年一月二十五日ニ至リ所管換ノ手續ヲ完了シタ。)

同四月一日、本評議會經費大正十五年度歳出豫算ノ牒通ガ文部省ノ會計課長ヨリアツタ、其ノ額ハ前年度ニ於ケル調査會ノ經費額ト同額(一五、五四〇圓)デアル、大正十四年度ニテハ突然ノ減額豫算デアツタ爲ニ差繰方ニ困難シタガ東京帝國大學ト交渉ノ結果辛ウジテ都合ヲ付ケタ。

同四月二十二日、内務省社會局長官ニ宛テ幹事ヨリ照會書ヲ發シ六月四日ニ至リ會長宛ニテ其ノ復書ガアツタ、其ノ照復ハ左ノ如クデアル。

震甲第六號 社會局長官宛 幹事名(四月二十二日附)

震災豫防調査會報告書購入方ノ件照會

元震災豫防調査會ハ官制上文部大臣ノ管理ニ屬シ是迄年額凡ソ參萬圓ノ豫算ヲ以テ震災豫防ニ關スル有益ナ調査ヲ遂ゲ内凡ソ壹萬圓位ヲ印制費ニ充テ其成果ヲ公刊シテ内外ノ要所ニ配付シテ來マシタ、特ニ最近ノ關東大震災ニ際シテハ餘災ノ猶ホ盛ニ上ツテ居ル中ニ各委員ガ奮闘努力シテ極メテ有益ナ調査材料ヲ擧ゲ斯道ニ於ケル最モ權威アル報告書ヲ作成シタノデアリマスガ印刷費ハ臨時ニ壹萬圓ヲ増サレタ許リデアツタガ爲メ、其報告書ヲ全部印刷スルニ至ラズ、唯僅ニ地震篇、地變及津浪篇、火災篇ノ三篇ヲ上梓シ得タノミデアリマス、此等ノ公刊サレタ報告書ノ聲價ハ單ニ内國ノミニ止マラズ海外カラモ注文ガアリ特ニ火災篇ノ如キハ外字ニ翻譯スル價値ガアルトマデ外國雜誌ニ批評サレテ居マス、然ルニ遺憾ナコトニハ震災豫防調査會ハ昨年ヲ以テ廢セラレ其ノ殘務ヲ官制上文部大臣ノ管理下ニアル震災豫防評議會デ處理致シテ居マスガ是連モ其印刷費豫算ハ僅ニ年額貳千八百四拾圓トイフ小額デアリマスノデ、他ニ適當ナ補助ノナイ限り、數年ノ繼續事業トシテ委員配付用ノ小部數ヲ印刷シ得ルニ止マリ、部外ヘ寄贈用ノ部數ヲ印刷スルガ如キハ到底不可能ノコトニ屬シマス、斯クテハ此振古未曾有ノ出來事ヲ最詳細ニ最確實ニ後世ニ傳フル上ニモ一大缺陷ヲ生ジ、且ツ又現時進行シツ、アル復興事業ニ對スル有益ナ參考材料ガ利用シ得ラレナイコトニモナリ、誠ニ遺憾千萬ノ次第デアリマス、就テハ貴局ニ於テ大震災

殘務整理ニ從事致サレルヲ幸ヒ部外へ寄贈用ノ部數九百部此見積價格貳萬九千四百參拾九圓ヲ印刷者ヨリ御購入ノ上内外關係方面ニ御配付相成ルコトハ當ニ我々ノ仕合セノミナラズ國家ノ慶福トモナルコトト存ジマス、尤モ書肆へ販賣權ヲ與ヘテ廣ク公賣サセルノモ一方法ト考ヘマシテ前ニ公刊シタ三篇ニツイテハ此方法ヲモ併用シテ居リマスガ購讀スル程ノ特志者ハ現世ニ於テ極メテ少イ様デアリマス、今回印刷セントスル二篇ニツイテモ公賣ニ附スルコトハ可ナリトシテモソレハ印刷費輕減ノ目的ニハ殆ンド利用シ難イト存ジマスカラ御參考ノ爲メ此段ヲモ申添ヘテ購入方御取計ヒ相成度、土木篇、建築篇ノ目次ヲ相添ヘマシテ此段照會ニ及ビマシタ次第デアリマス（目次其ノ他添付モノ省略）。

收社第一〇七五號ノ内 震災豫防評議會長宛

社會局長官名（六月四日附）

震災豫防調查會報告書購入方ノ件

四月二十二日付震甲第六號ヲ以テ御照會相成候大震災號中土木篇及建築物篇各九百部購入方ノ件右ハ各八百部ヲ限リ購入致度就テハ當局ノ配付希望先ハ左記ノ通りニ付當局ノ名義ヲ以テ貴會長ニ於テ之ガ配送方可然御取計相煩度此段御依頼旁及回答候也（左記省略）

追テ本件印刷出來時期御見込承知致度申添候

同六月十四日、本評議會設置ノ際ニ元調查會委員デアッタ

正三位勳一等田中館愛橘、正三位勳二等長岡半太郎ノ兩名ハ

當時海外出張中デ發令ニ至ラナカッタガ此日ヲ以テ各評議員被仰付（内閣）ノ發令ガアリ、尙ホ左ノ交迭ガアッタ。

（依願）震災豫防評議會評議員被免（内閣）

正五、勳六（元警視廳建築課長） 竹 内 六 藏

震災豫防評議會評議員被仰付（内閣）

正六（警視廳建築課長） 野 田 俊 彦

同六月十八日、震災豫防調查會報告第百號丙建築物篇、土木篇ハ内務省社會局長官ノ諒解ヲ得其ノ回答（六月四日附前記）ニ依リ愈々印刷出版ノ曙光ヲ見ルニ至ッタノデ此日出版發賣ヲ許可スル條件ノ下ニ印刷供給者トノ契約方ヲ文部省會計課長ニ依頼シ、同會計課ニテハ七月十二日指名競争ノ入札ニ付シ、最低入札者岩波茂雄ニ落札シタノデ同月十五日左記ノ通り契約ヲ締結シ其ノ旨ヲ會計検査院及社會局ニ通報シタ、本報告書ハ契約期間内ニ印刷ヲ了シ完納ノ後十月中代金支拂ノ手續ヲ爲シタ、此レデ關東大震災號トシテノ調查報告書ノ出版ヲ完成シタ譯デアル。

報告書第百號丙 上下二冊 建築篇、丁 一冊 建築物以外ノ工作物篇

九百部

一、請負金額 二九、三〇四・圓

一、豫定價格 二九、四三九・圓

一、供給請負人 岩波書店岩波茂雄

一、政府ノ契約擔任者 文部大臣官房會計課長

一、納入期日 大正十五年十月十四日

一、代金支拂 九百部二九、三〇四・圓ノ内

百部 三、二五六・圓ハ 震災豫防評議會經費ニテ支拂
八百部 二六、〇四八・圓ハ 內務省社會局經費ニテ支拂

同六月二十九日、第一回評議員會ヲ東京帝國大學構内山上會議室ニ開イタ、出席者ハ會長、幹事、評議員ヲ合セテ二十三名、松浦會長先ヅ開會ノ旨ヲ宣ベ、更ニ本評議會ノ成立及ビ元震災豫防調查會トノ關係並ニ新タニ大學ニ設置サレタ地震研究所ノ大要ヲ説明シ、尙ホ本會ト地震研究所トノ密接ナル關係ト共ニ將來重要ナル實際問題ニ對シテハ相互ノ連絡ヲ要スル旨ヲ説キ、又元震災豫防調查會ノ殘務ハ本會ニ於テ繼承シ今村評議員ガ幹事トシテ專ラ其ノ衝ニ當ラレ漸次片付キツツアルコト及ビ同幹事ヨリ其ノ經過ニ就キ更ニ報告ヲ乞フコト並ニ本日ノ會合ハ早ク開ク筈ナリシガ今日ニ延引シタル旨ヲ述ベ。次ニ今村評議員ハ元調查會ノ殘務處理ニ當リタル其ノ經過ニ就キ建物工作物等不動産ニ關スルコト、機械器具等動産ニ關スルコト、報告書ノコト特ニ印刷未了ノモノニ付キ將來ノ希望ヲ兼ネテ委曲詳説シ、尙ホ從來調查會委員ニシテ調査研究中ニ係ル事項ガ地震研究所ノ所員トナラヌ委員ニ屬スル分ノ中絶セントスルノハ極メテ遺憾ナ次第デアツタガ此等ハ地震研究所長ノ諒解ノ下ニ繼續スル様ニナツタコトヲ喜ブ旨及ビ地震研究所ニ於テ調査研究事項ガ時々發表セラレ其ノ講演ノ際我々ガ傍聽スルノ機會ヲ與ヘラレタコトヲ感謝スルトノ意ヲ述ベ。次ニ末廣評議員ハ同評議員ガ地震研究所長トシテ其ノ筋ヨリノ交渉アリタル關係ヨリ所長事務取扱トシテ就任シタル經緯ヲ詳説シ將來ノ希望ヲ述ベ、更ニ調査研究ノ事項ヲ時々報告講演ノ際ハ單ニ傍聽ノ意味デナク遠慮ナ

キ批評ト鞭撻指導トヲ受ケタキ旨及從來調查會ヨリ引續キ調査研究事項ニ對シテハ出來得ル限り便宜ヲ計ルコト、並ニ地震研究所ノ現在及將來ノ位置ニ就キ略説シ、尙ホ同研究所ノ調査研究事項ニシテ談話會等ニ報告ノモノハ彙報トシテ出版スベキ旨ヲ述ベ、後懇談ヲ了ヘテ閉會シタ。

同八月二十四日、第三回汎太平洋學術會議編纂委員長ヨリノ照會ニ對シ本會ノ英文名ヲ左ノ如ク回答シタ。

The Imperial Earthquake Investigation Council.

昭和二年一月十九日、各方面カラ、過グル關東大震災ヲ記念シ或ハ其ノ慘害ヲ追悼スル等ノ意味ニ於テ、其一週年又ハ二週年ノ當日、種々節約ノ方法ヲ講ジ、各個ノ醵集金ヲ地震研究調査ノ資料ニ供シ度キ希望ヲ以テ大正十三年九月一日ヨリ寄附申込ガアツタ、其ノ内處理未済ノモノガ左記ノ通デアツタガ個々ニ分立シテ適當ノ物品ヲ選定スルヨリハ一纏メトシテ選定購入スル方ガ便宜デ且ツ最も有效ト認メ、此ノ日ヲ以テ東京帝國大學ニ對シ今村教授ガ各申込者ノ代理トシテ寄附ヲ申込ミ、同大學ニテ受理サレタノデ、二月二十五日取纏メ納入ノ手續ヲ了シタ。右ハ地震學研究上最も必要ヲ感ズル時報受信機貳臺(此價格參百九拾餘圓)ヲ購入ノ上壹臺ハ千葉ノ清澄地震觀測所ニ壹臺ハ鎌倉ノ由比濱地震觀測所ニ据付ケルコトニ決定シタ。

寄附申込者並ニ其ノ金額

金參拾四圓五拾參錢(寄附申込二回及利子共)

牛込拂方町々會親正會會長 坂井義三郎

金百拾八圓八拾參錢(寄附申込二回及利子共)

太陽生命保險株式會社有志代表 島 貢 介

金貳圓四拾八錢(利子共)

神奈川縣橫須賀市 三 好 (某)

金百貳拾參圓拾錢(利子共)

橫濱復興キネマ館主 岩 科 清 次

金參拾壹圓九拾參錢(利子共)

廣島縣東警察署員代表 警視 畑 淺五郎

金八拾圓四拾貳錢(利子共)

伊豆山震災豫防協會寄附募集主催者 岸 衛

合計金參百九拾壹圓貳拾九錢也